

1 学校として目指す授業

基礎的・基本的な内容の定着を図りながら、自他の特性を的確に理解し、児童一人一人が自分の考えをもち、人との関わりの中でその考えを深めたり広げたりすることのできる授業

2 児童の現状

(1)「全国学力・学習状況調査」の分析（6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」の校内平均正答率が都の平均正答率を下回っており、漢字や文法の習熟に課題が見られる。2学期以降、作文指導を中心に、学年相当の漢字の書字や主述等の文法指導に重点的に取り組むこととする。 ・算数では、特に、立体の体積を求める能力と、2点の地点間における速さを求める能力について、課題があることが明らかになった。児童の解答傾向を分析すると、それぞれ文章題の題意を捉えて立式することにつまずきが見られた。今後は、これまでに学習した公式を復習する機会を設定するとともに、読解、立式等の指導に取り組む、本課題の解決を図る。	1日当たりのテレビゲームをする時間やSNS・動画を視聴する時間が2時間を超える児童が50%以上であると同時に、家庭での学習時間が1時間未満の児童が50%以上と、多くの児童に家庭で学習に向かう生活習慣が身に付いておらず、ゲームやスマホに時間を費やす児童が非常に多い。また、書籍や新聞を読む機会などが全体的に低く、文章を読む習慣が比較の少ない傾向がある。

(2)清瀬市「学びに向かう力等に関する意識調査」の分析（4～6年生）

・学校以外での毎日の学習時間は、30分以下が79.7%である。ほとんどの児童に家庭学習が定着していない。
・教科書を読むなどして、これから学習することへの見通しをもっているかに関しては、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を46.9%の児童が選択していることから、予習が定着していないことが分かる。
・教科書やノートを読み返すなどして、授業を振り返っているに関しては、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を46.9%が選択していることから、復習が定着していない。
・全体的に授業への意欲の高さはあるものの、家庭学習、予習、復習の定着不足がみられる。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析（5年生）

・国語では、書くことに関する問題の校内平均正答率が市の平均正答率を下回っており、「どのような言葉を用いて、どのように表現すれば自分の考えが伝わるように書き表せるか。」という点に課題が見られる。このことから、2学期以降、これまで以上に、校内研究のテーマでもある「書くこと」と関連付けた授業改善に取り組んでいく。
・算数では、全領域の問題の平均正答率が、市平均を上回っている。しかし、思考・判断・表現については、ほぼ市の平均正答率と変わらないことから、今後は言葉や図、数と式、表とグラフなどの表現を問題解決に生かしたり、思考の過程や結果を表現して説明したりすることをより多く取り入れた授業を行っていく。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京都統一体力テストでは、多くの学年で「50m走」と「20mシャトルラン」、「反復横跳び」の記録が全国平均よりスコアが低いことが分かった。走、跳の単元での基礎的な運動能力の獲得や充実を図るとともに、体育発表会などの機会を通して自らの記録に挑み続ける意欲を高めることも必要であるとする。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・国語、算数ともに、既習事項や基礎的基本的な学習を十分に身に付けていない児童が多い。基礎基本の学習を繰り返し行い、さらに習熟させる必要がある。
・思考力・判断力・表現力を問われる問題で、十分に力を発揮できていない。低学年から高学年まで、各授業の中で、何を考えさせて、その考えをどのように表出させるか、授業をより洗練していく必要がある。
・自信をもてず、積極的な発言や発表を避ける児童が多い。安心して発言・発表できる関係づくりを行い、自己肯定感を高める必要がある。

4 学校全体の授業改善の視点

診断的な評価を活用して児童の習熟度を単元学習前に把握するとともに、個に応じた指導の充実を図る。一人一人が「できた。分かった。」という成功体験を通して、自己肯定感を高めていくことで、学びに向かう力、人間性等を養う。本校の課題である基礎的な学習能力（書字、計算等）の育成については、学習集団に対して一律の課題を示すばかりではなく、児童の困り感に沿った個別の課題を与えとともに、個人内評価尺度を設定して形成的に指導及び評価に取り組んでいく。特に、算数については、東京ベーシックドリルを用いて、当該学年までのつまずきを把握した上で単元の指導計画を作成することとする。

【授業改善推進プランの活用法】
①「1 学校として目指す授業」を設定する。 ※学校経営方針との関連を確認すること。
②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況进行评估し、3学期以降の指導に生かす。 評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・書く活動では、基礎的な内容を継続的に学習する。また、語句の続き方に注意し、内容のまとまりがわかる書き表し方の工夫を知る。 ・読む活動では、情報を整理しながら読解していくことに慣れる。				・本の数を求める問題では実際に本を使って考えたり、一人一台の時計を使って時刻を考えたり、具体物を使って問題を身近に捉える。 ・計算問題では、児童の実態に応じて数を変えていく。				・植物の栽培、虫の飼育などを体験することで、身の回りの動植物に愛情をもって接する態度を養う。 ・観察したことをカードにかくなどして記録し、生長や成長に気が付けるようにする。		・正しい音程感やリズム感を育てるため、範唱や範奏を繰り返し聴かせたり、階名唱や暗譜の活動を取り入れたりする。 ・意欲的に学習に取り組めるよう身体を動かす活動を取り入れる。		・自分の表現したいものを見付け、のびやかに表現できるよう個々に応じた声かけを行い、様々な道具や材料に慣れ親しませ、はさみ、のりなど基本的な道具の正しい扱い方を繰り返し指導する。				・1時間の授業の中で、様々な運動をバランスよく行い、少しずつ体力を付けていくように指導をする。 ・個人の伸びを感じられる声掛けを行い、成長と達成感を味わわせる。 ・年間を通して用具操作の運動に慣れさせていく指導をする。				・教材の登場人物の心情を想像しやすいように、ICT端末を用い、ロールプレイを取り入れていく。 ・友達の見え聞いて多様な考え方があることを知り、自分の考えを深める指導を行う。	
中学年	・読み手を意識した作文に取り組み。また自分の考えと、理由や事例との関係を明確にした書き表し方を知る。 ・スピーチでは、内容を簡潔に伝えたり、要点を考えながら聞いたりできるようにする。		・社会的事象を自分事ととらえられるように導入では、身近なものや具体物を活用する。 ・教科書のみで学ぶのではなく、体験活動や見学を多く取り入れたり、ICT教材を活用したりする。		・提示された文章題そのものや式の意味が理解できるよう、具体物を活用し、場面を整理しながら指導する。 ・学習したことを生活場面で実感させたり、生活場面から学習へとつなげたりする。		・実験や観察をする前に、児童の体験活動などから根拠ある予想を立てる。 ・単元が終了したら学習内容の振り返りを行い、自分たちの生活にも生かすことができるよう指導する。				・授業内の発表の中で、友達の表現を大切にし、その発表から楽曲の良さに気付かせる。 ・より音楽に親しめるよういろいろな曲を聴く機会を設け、なじみのある楽曲や児童の実態に合う楽曲を題材として、興味・関心を広げていく。		・木工具など新しい道具や材料の扱い方を知らせるとともに、絵の具やパス、はさみ、のり、カッターナイフ等を使う機会を増やし、適切な扱い方について繰り返し指導する。				・児童が成功体験を得やすいように、ルールを緩和したり、場や道具等を簡易化して指導をする。また、友達と協力して課題解決ができるよう、意図的にグルーピングを行う。				・登場人物の気持ちや行動などを自分との関わりで考え、話し合い活動や動作化、役割演技などを通して、多様な考え方を知り、それぞれの考え方を尊重できるようにする。	
高学年	・モデル文を活用して、児童の書く活動を支援する。また自分の考えが伝わるような書き表し方の工夫を知る。 ・文種に応じた読みの観点を示し、読み方の理解を促す。		・地球儀やICT教材を活用し、日本や世界の国土の特徴や文化、位置を指導していく。 ・資料を効果的に提示し、読み取りの視点を具体的に指導する。（写真・グラフ・表の読み取りなど）		・ベーシックドリルやICT等を活用し、既習事項の定着を図る。 ・既習単元や前学年の復習を適宜行い、学習内容の理解を深める。 ・途中までのものも含めて考えも表出させ、それを認める。		・自分たちで見付けた問題に対して、解決方法を考え実験計画を立てられるように指導する。実験後は、実験の際に考えた予想や仮説、結果をから考察が導き出せるような流れを習得させよう。				・思いや意図をもって演奏し、表現に必要な技能を高めるために、基礎基本の定着を図る。 ・ステップを細かく設定し、達成感を積み重ねられるようにする。 ・より音楽に親しむために様々な曲を聴く機会を設ける。		・様々な道具や技法を紹介し、自分なりの表現に必要な方法を選択判断できるよう指導する。また、自分の見方や感じ方を大切にしながら、課題意識をもって活動できるよう声かけをする。		・基礎・基本の定着を図るとともに、調理や裁縫の技能を身に付けられるようにする。 ・学習後の振り返り活動を設定し、身に付けた技能を自覚できるようにするとともに、家庭生活の中で実践できるよう指導する。		・運動量を確保し、よりよい動きにつながる方策を個人やグループで考える機会を設定する。また、ルールや取り組み方を検討して運動をする活動を通して、自己実現を達成する機会を増やす。		・外国語を使用した対話的活動を設定し、そのモデルを示す。 ・アクティビティを通して、楽しみながら外国語を学べるよう支援し、児童の外国語への学習意欲を高めていく。		・課題に対する考えをICT端末で共有する時間を設定し、登場人物の行動を評価したり、自分ならどうするかを考えたりさせる学習を設定する。自分と関連付けて考える素地を養う。	